

家政大・リカちゃん展 ー産学連携展示の試みー

尾崎 司

The Exhibition Report of the Fashion Dress-up Doll 'Lica'
in Tokyo Kasei University

Tsukasa OZAKI

1. はじめに

「こんな服着てみたい。あんなお家に住んでみたい」ー日本の少女たちに愛され親しまれてきたリカちゃん人形は、1967年に発売されて以来、少女たちの“あこがれ”や“夢”を形にし続けてきた。明年は、その40周年にあたる。

一方、今年125周年の佳節を迎える本学は、株式会社タカラトミー（以下タカラトミー）と共同でリカちゃん人形と人形遊びに関する研究をすすめることとなった。そして、人形遊びをもう一度捉え直し、新たな文化を創造する契機の一つとして、博物館にて「家政大♡リカちゃん展」を常設展示することとなったのである。

この展示は、リカちゃん人形の変遷と家政学部の学生たちがデザインする“新たなリカちゃん”の表現を試みたものとなっており、開催初日である緑苑祭（学園祭）の2日間で、1200名弱の来館者数を数えた。本稿では、学生がデザインした展示を中心に報告する。

2. 企画趣旨

[展示までの経緯]

企画案の時点では、リカちゃん人形が発売されて2007年で40周年を迎えるため、過去から現在までおよそ40年間の変遷を展示してみてはどうかと考えていた。リカちゃん人形やハウスには、当時の女の子の“あこがれ”が反映されている。服（ファッション）、ハウスのなかの冷蔵庫やテレビなどの家電製品、家具、小物などからは、時代をみることができる。また、過去を振り返るだけでなく、学生のクリエイティブな発想で近未来の生活を想像し、未来のリカちゃん人形を制作し展示してみてはどうかと考えていた。

しかし、企画を進めていくうちに、学生の作品の方向性から家政大学の強みを活かした産学連携展示というコンセプトに落ち着いた。リカちゃん人形の展示に関しては、これまで数多く

実施されてきているが、家政大の強みである衣食住と子ども・家族など暮らしに関する切り口からアプローチすることがよいと考えた。

作業は、それぞれ個別におこなった。あるときは、日本玩具文化財団へ訪問し、リカちゃんの歴史や制作にまつわるエピソードなどを聞いた。タカラトミー本社へ訪問し、自分たちのデザイン画を見せながら、ヘッドや瞳、髪型、メイクなどを百数種類のサンプル・ヘッドからデザイン画のイメージに沿って選び、工場にオーダーし、現代ファッション、服装史と映画服のレプリカ、ファッションショーなどに使用する人形を制作していった。

また、服装史研究室は中高生や大学生を対象にアンケートをおこない、その結果、リカちゃんの服装には現代ファッションが求められているのではないかという仮説を立て、また、ファッションモード同好会はそれを受けて、現代の女性誌からイメージして制作を進めた。

附属幼稚園ジオラマは、前々日から児童学科の学生が即興で制作し、園服は約30着を1週間で分担して制作した。こうして、タカラトミーと日本玩具文化財団の協力を得ながら、本展示が実現した。

[展示のねらい]

リカちゃん人形の変遷を衣食住と子ども・家族などの切り口から振り返り、来館者が「時代」を懐かしみ、また、いまの学生がデザインする“あこがれ”“夢”“感性”の形に触れ、楽しんでもらえる企画展示をおこなう。

[展示期間] 2006年10月28日から11月21日

[開催場所] 東京家政大学博物館 第2展示室

[構成]

図1のように、タカラトミー・ゾーンでは、歴代リカちゃん、記念品リカちゃん、歴代リカちゃんのお友だち、年代別の家族とハウスの変遷、キッチン・家具、服、小物などを展示し、時代とともに衣食住や家族などの変遷、マクドナルドやコンビニエンスストアなどそのときの社会の様子も見ることのできる構成となっている。

家政大ゾーンでは、受付前に等身大リカちゃんが来館者を出迎え、現代ファッションを身にまとうリカちゃん、歴史服や映画衣裳のレプリカ服のリカちゃん、学園祭ファッションショー連動作品服のリカちゃん、附属みどりヶ丘幼稚園ジオラマと園服を着たミキちゃん・マキちゃん、家政大リカちゃん、など本学の学生によって制作された服が展示されている。現代ファッションでは、学生が雑誌社に承諾を得て雑誌と並列し、イメージを伝えている。歴史服や映画衣裳のレプリカ服では、年表や製作過程のパネルを掲示した。学園祭ファッションショー連動作品服は、ファッションショーをイメージした舞台を準備した。幼稚園ジオラマでは、幼児用

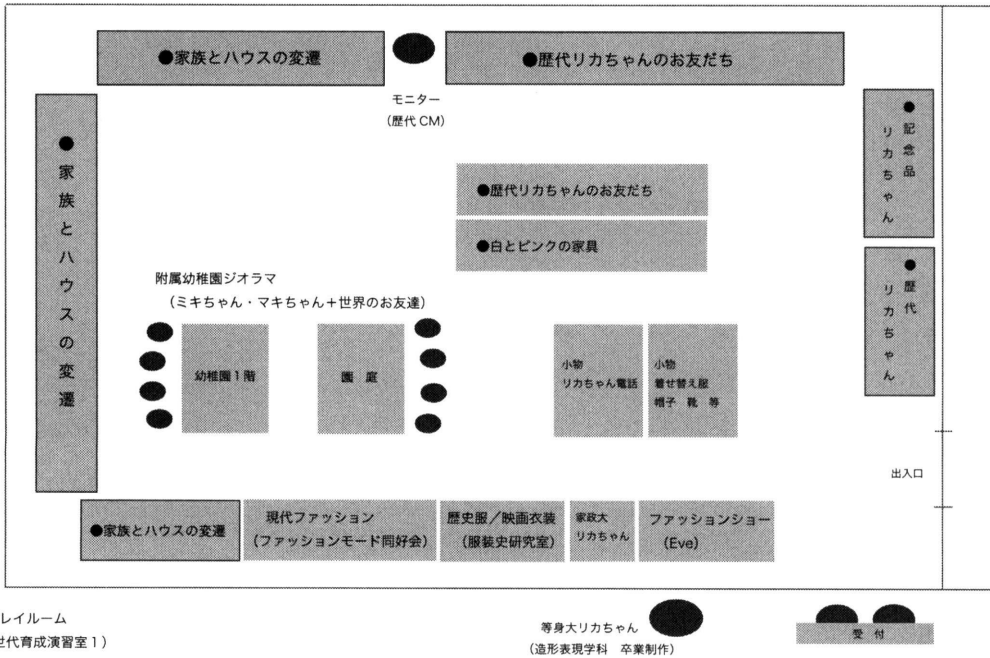
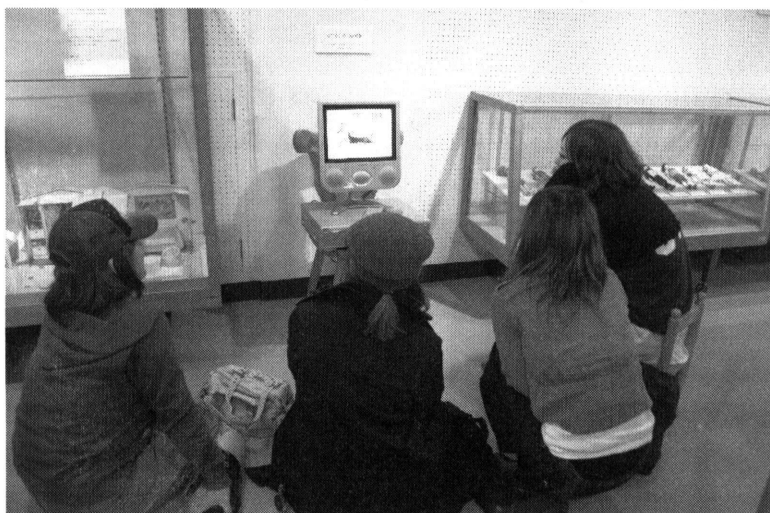


図1 博物館第2展示室 配置図

椅子を配置し、そこに座ってみることで視点の移動が生じ、子どもの目線で鑑賞することができるようにした。

1967年から2002年までのテレビCM集の映像も流した。貴重な映像と音で「時代の流れ」を感じることができ、展示全体の雰囲気をもっとリアルに感じることができるようにした。



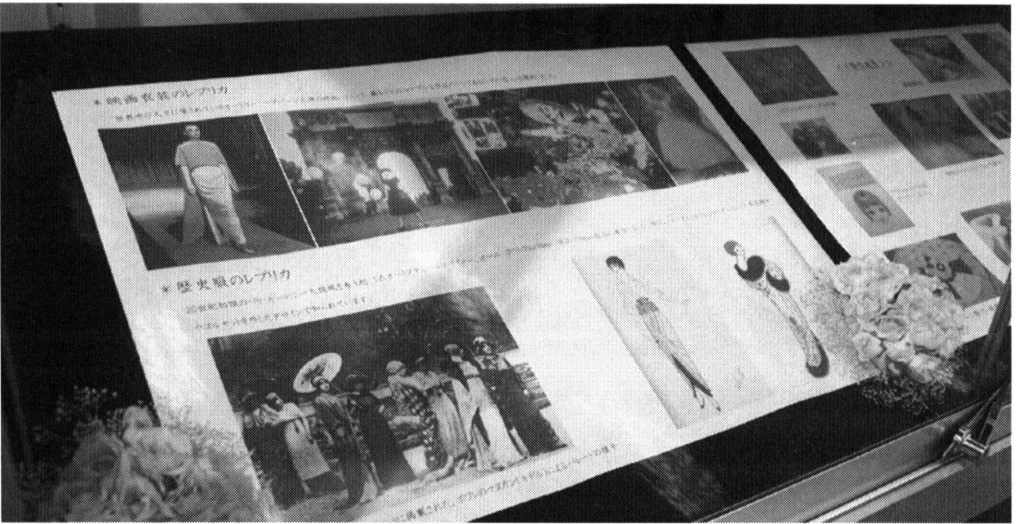


3. 学生の制作物

1) 映画衣裳のレプリカ／歴史服のレプリカ 8体（服装史研究会）

服装史研究室（指導教官 能澤慧子教授）の大学院生による、オードリー・ヘップバーン出演「パリの恋人」と20世紀デザイナー ポール・ポワレのデザインしたドレスのレプリカを制作した。





2) 現代ファッション 14体（ファッションモード同好会）

ファッションモード同好会（指導教官 能澤慧子教授）の学生が、リカちゃんに若い女性向けの流行服を着せるとどうなるかということで、表1のようなカテゴリーに分類し、現代のファッション誌モデルをイメージしながら制作した。

表1

	カ テ ゴ リ ー	使 用 雑 誌
1	Casual & Cute系リカちゃん	なし
2	ダンサー系リカちゃん	なし
3	こてかわ系リカちゃん	Zipper
4	ロリータ・ゴシック系リカちゃん	KERA
5	パンク系リカちゃん	KERA
6	お嬢様系リカちゃん	JJ
7	お姉系カジュアルリカちゃん	PINKY
8	モード系リカちゃん	FRUITS
9	個性派モード系リカちゃん	装苑
10	ストリート & カジュアル系リカちゃん	PS







3) ファッションショー 21体 (Eve)

学園祭で恒例の学生団体Eveによるファッションショーの衣裳からミニチュアを制作した。



4) 等身大リカちゃん

造形表現学科学生による卒業制作（指導教官 有馬十三郎教授）で、「10年後のリカちゃん計画—私の子どもへ贈りたい、一番最初の着せ替え人形—」というタイトルで、等身大の球体関節人形を制作した。

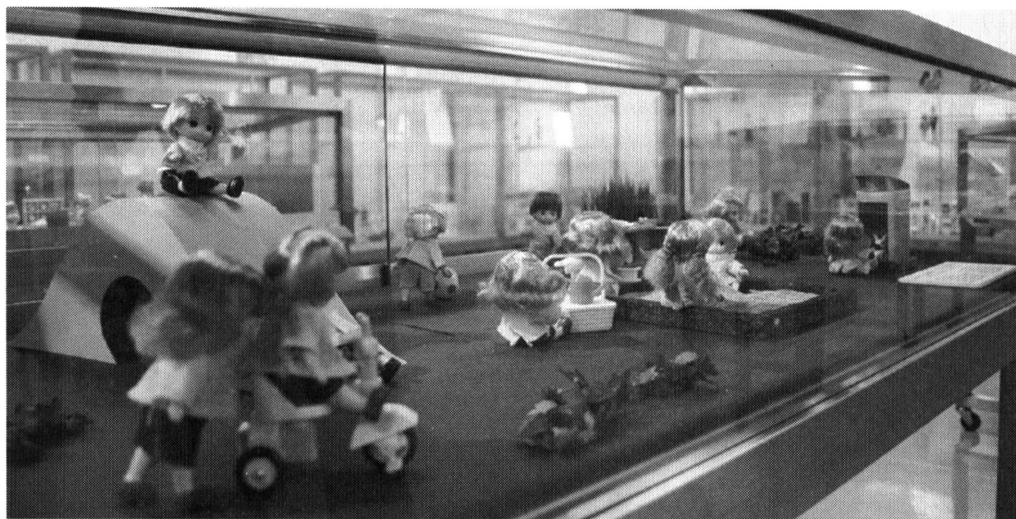


5) 家政大リカちゃんと附属みどりヶ丘幼稚園ジオラマ

附属高校、9月に板橋区大山にオープンした家政大生によるレストラン「茶の間」のエプロン姿、幼稚園園服をイメージして制作した。

附属みどりヶ丘幼稚園ジオラマは、幼稚園に親しみを持つ児童学科の学生が2日間で制作した。





おわりに

本展示は、本稿執筆の時点では、まだ始まったばかりであるが、2日間の来館者アンケートからは「刺激的で」「興味深い」「懐かしい」内容であったことがうかがえる。ここでは、いくつか印象に残っている点に言及するにとどめたい。

まず、リカちゃんハウスの展示や当時の雑誌広告、CM集の映像などから、衣食住、暮らしや時代を来館者が感じ、また、いまの学生がデザインする“あこがれ”“夢”“感性”の形に触れ、楽しんでもらえた展示となった。

それだけではなく、2点目として親子連れで来館した方にとっては、「親子の世代間コミュニケーション」の場となっていたようである。「昔のリカちゃんを見る事でお母さんが懐かしがり、リカちゃんと遊んだ事を話してくれました。大人は懐かしい気分になり、私の年代は昔のリカちゃんに興味をひかれました。とても良いと思います」(中学1年生)という感想にあるように、関心をもつ世代層が広範囲にわたっているので、こうした会話のきっかけが生まれるであろう。

子どもの反応も非常に良かった。幼稚園児はみどりヶ丘幼稚園のジオラマをいち早く見つけ、張り付いて離れないくらい、真剣に見ていた。保護者からも「楽しい感じがそのまま活かされている」「躍動感がある」などの声をいただいた。子どもが見て楽しめる展示となった。また、小学生以上では、自分が着ている制服や自分たちの世代が着る服が展示されていることに新鮮さに感じており、「現代ファッション」や「ファッションショー (Eve)」のドレスに興味を示していた。「あこがれ」の内容が変化してきているのではないだろうか。

最後に、本展示は玩具メーカーとの産学連携の展示であり、学生参画型の展示でもあり、メーカーと学生の専門性の強みを活かしたことが特色となっている。また、メーカー側にとっても、対象となる幼児だけでなく、幅広い世代のユーザーが興味関心を抱いていることを、この展示を通じて直に確認できたことは、対象の見直しにもつながり、意義のあることではないだろうか。今後は、卒業制作(等身大リカちゃん)、アンケート調査をふまえた志向性(現代ファッション)、研究室の専門領域(歴史服のレプリカ)などのように、こうした強みを活かし、研究成果を反映した展示や制作物を使ったプレゼンテーション型展示などの方向性を模索していきたい。

謝辞

本展示にあたって、資料や助言をくださった株式会社タカラトミー、日本玩具文化財団、WINGS河村伊津美様、そして本学博物館職員の方々に深く感謝いたします。